

ベトナム社会主義共和国国会議長及びシンガポール共和国国会議長の招待による  
両国公式訪問参議院議長一行報告書

団 長	参議院議長	尾辻 秀久
	参議院議員	世耕 弘成
	同	水岡 俊一
	同	山本 博司
	同	舟山 康江
	同	紙 智子
同 行	国際部長	大村周太郎
	議事部副部長秘書課長事務取扱	松下 和史
	議長秘書	末原 朋実
	参事	椋野 佑希
	警護官	久保田 靖
	同	大濱 一寿

## 一、始めに

尾辻参議院議長一行は、令和五（二〇二三）年九月四日から九日まで、ベトナム社会主義共和国ヴォン・ディン・フエ国会議長及びシンガポール共和国シア・キアン・ペン国会議長の招待により両国を公式訪問した。

以下、尾辻議長一行の訪問の概要を報告する。

## 二、日程

九月四日（月）東京発、ハノイ着

九月五日（火）技能実習生送出機関視察、国会歓迎式典、フエ・ベトナム国会議長との会談、記念植樹、フエ議長主催歓迎晚餐会

九月六日（水）日本人学校視察、マイ越日友好議員連盟会長との会談、ルア越日友好協会会長主催昼食会、トゥオン・ベトナム国家主席への表敬

九月七日（木）ハノイ発、シンガポール着

九月八日（金）日本人墓地公園視察・献花、シア・シンガポール国会議長との会談、シア議長主催昼食会、パシル・パンジャン港視察、クェック・シンガポール日本友好議員連盟副会長主催夕食会

九月九日（土）シンガポール発、東京着

### 三、ベトナム社会主義共和国

#### (一) 国会歓迎式典、フエ国会議長との会談、記念植樹等

五日午後、一行は、国会歓迎式典、フエ議長との会談、記念植樹、フエ議長主催歓迎晩餐会出席のため、ベトナム国会議事堂を訪問した。

尾辻議長が国会議事堂正玄関に到着すると、フエ議長が車寄せで出迎えた。尾辻議長はフエ議長の案内により国会議事堂に入り、国会議事堂ホールに掲揚された両国国旗の前で議長同士の記念撮影を行った。その後、尾辻議長はフエ議長の案内により国会記念室を訪問して展示の説明を受けるとともに、芳名録に記帳した。

引き続き、蓮の間でフエ議長との会談が行われた。

会談冒頭フエ議長は、尾辻議長一行を歓迎した上で、越日外交関係樹立五十周年を記念する年の尾辻議長の訪越は特別な意義を有するものであって、両国関係の方向付け、規範づくりに貢献するものであると評価した。続いて、両国の関係が「広範な戦略的パートナーシップ」に格上げされて以来、両国間の協力は非常に高い政治的信頼を得て順調に発展していることを指摘した。

これに対して尾辻議長は、外交関係樹立五十周年の節目にフエ議長の招待により訪越できたことは光栄であり、大きな喜びであると応じた。続いて、同行議員はいずれも各政党を代表する幹部であり、こうしたハイレベルの議員の訪越は我が国がベトナムとの関係を重視していることの表れでもあると説明した。また、令和二（二〇二〇）年にベトナム国会から医療用マスク一万枚の寄贈を受けたことに言及し、新型コロナウイルス感染症が流行する中、ベトナム国民からの親身な支援に胸が熱くなる思いがしたと述べた。さらに、議長就任後初めての外国訪問として訪越したのは、ベトナムに対して格別の親近感を抱いていたからであるとし、今後も、あらゆる分野でベトナムとの結び付きが強くなるよう力を尽くしたいとの抱負を示した。加えて、戦争やテロ、貧困、環境・気候変動、食糧問題等、地球規模の課題に取り組むに当たり、両国の国会議員が対話を重ねることは極めて重要であると指摘した。最後に、日越両国は「自由で開かれたインド太平洋」を実現していく上で重要なパートナーであるとともに、長い歴史に裏打ちされた温かい友情と深い文化的な結び付きを有していることを指摘し、今回の訪越を機に両国間の伝統的な友好と協力のきずなが一層深まることを期待すると強調した。

尾辻議長の発言を受けてフエ議長は、両国の関係を「広範な戦略的パートナーシップ」から新たな高みに引き上げ、包括的な戦略的パートナーとなることを支持したいとの意向を示した。続いて、外交関係樹立五十周年に当たり、今後予定されている秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御訪越及びトゥオン国家主席の訪日は象徴的なものであり、こうしたハイレベルの相互訪問を頻繁に行いたいと述べた。また、国際連合、ASEAN（東南アジア諸国連合）、APEC（アジア太平洋経済協力）といった多国間の枠組みの中で越日両国が引き続き相互に支持し合い協

力することを提案した。さらに、経済・貿易・投資関係で日本は重要なパートナーであるとし、両国経済の連結性を強化するため、日本企業が、ベトナムをサプライチェーンに組み込むこと、インフラ・技術移転に関してベトナムに投資することを要請した。加えて、持続可能な開発目標を達成するため、社会発展、貧困撲滅に資するようなODA供与の継続も要請した。続いて、五十万人の在日ベトナム人コミュニティに関し、入国手続の簡素化を要請するとともに、技能実習生の待遇改善に関する日本の対応に謝意を表した。また、南シナ海での航行の自由に関し、国連海洋法条約などの国際法に基づくべきとするベトナムの立場を日本が支持していることに感謝の意を示した。

同行議員から、日越関係を飛躍させる行事として秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御訪越とトゥオン国家主席の御訪日を大成功させなければならないとの発言、地政学的にもサプライチェーン多様化の面からもベトナムは日本にとって最優先の投資先であり、海外からの投資拡大、国営企業の民営化などの課題について日本の経験を共有し協力できるとの意見、かつてODAに関する調査のため訪越した際に日本のODAが十分に活用されていることを認識したとの発言、技能実習生に関し、日越双方がウィン・ウィンの関係となるよう努力すべきとの意見、高齢化社会の先進国である日本は介護分野の技能実習に関してベトナムと連携できるとの意見、一部に人権侵害の問題が指摘される技能実習生については対処が必要であり、連携して議論したいとの意見、安全保障に関し、力による現状変更には断固反対するとの意見が述べられた。

これに対してフエ議長は、両国の政治分野では五十年にわたり高い信頼関係が築かれており、次の五十年を更なる協力の歴史にしたいと応じた。続いて、経済に関し、ベトナムは日本と緊密に連携を取ってサプライチェーンの維持・強靱化に貢献したいとの意向を示した。また、技能実習生に関しては送出機関と受入れ機関双方の努力が必要であるとし、技能実習生が技術を身に付けるとともに、法律に従って技能実習が実施されるよう監督していく必要があると述べた。さらに、議会間の協力に関し、IPU（列国議会同盟）会議、AIPA（ASEAN議員会議）総会、APPF（アジア・太平洋議員フォーラム）総会といった議員の国際会議の枠組みで引き続き連携していきたいとの発言があった。最後に、越日間で議会間交流が進んでいることを指摘し、女性議員や若手議員の交流を進め次の五十年の基礎としていきたいと述べるとともに、ベトナム国会と衆議院・参議院との協力枠組みの締結を提案した。

これに対し尾辻議長は、フエ議長から提案のあったベトナム国会との協力の枠組みづくりについて、貴重な提案であるので、この機会を生かすため意見を出し合って努力してみたいと応じた。

フエ議長との会談終了後、一行は、国会議事堂の敷地内でアメリカデイゴ（和名：カイコウズ（海紅豆））の記念植樹を行った。この記念植樹は、日越外交関係樹立五十周年を機に尾辻議長一行が訪越することから、節目の年にふさわしく

形に残る行事を行いたい旨参議院から提案して実現した。ベトナム国会議事堂の敷地内に外国の国会議員が植樹したのはこれが初めての例である。

記念植樹終了後、両議長から挨拶があった。

尾辻議長は、フエ議長始め関係者に感謝の意を示すとともに、アメリカデイゴは、自身の故郷、鹿児島県で県木として親しまれていることを紹介した。その上で、アメリカデイゴの花言葉「生命力」にちなみ、両国の友好関係は今後一層、活力に満ちあふれたものとなるであろうと述べるとともに、この苗木が両国間そして両国議会間の友好のあかしとして立派に成長し、新たな五十年の歩みを見守ってくれることを期待すると述べた。

これに対しフエ議長は、尾辻議長がアメリカデイゴをベトナム国会に寄贈・植樹したことは、今回の訪問で大変有意義な出来事であったとの認識を示した。加えて、植樹された苗木は大切に管理され、越日の今後五十年にわたる良好な関係のあかしとなるよう成長することを確信すると述べた。

この後、一行はヴー・ハイ・ハー国会対外委員長のご案内により本会議場を見学し、続いてタンロンの間で行われたフエ議長主催歓迎晩餐会に出席してベトナム国会議員等と更に意見交換した。

## (二) マイ越日友好議員連盟会長との会談

六日午前、一行は、チュオン・ティ・マイ越日友好議員連盟会長との会談のため、ベトナム共産党本部を訪問した。

会談冒頭マイ会長は、尾辻議長一行を歓迎し、昨年九月に自身が訪日した際の歓迎への感謝を述べるとともに、日本の温かいおもてなしに両国の友好関係のすばらしさを実感したと述べた。

これに対して尾辻議長は、議長として最初に面会した海外からの賓客がマイ会長であったことから、再会できたことをうれしく思うと応じた。続いて、ベトナムへ公式招待する旨のフエ議長のメッセージをマイ会長から受け取った際、訪越を実現するため最大限努力すると回答したことに言及した上で、約束を守れたことは本当にうれしく、今回の訪越が実現したのもマイ会長のおかげであるとし、感謝の意を示した。また、マイ会長が本年三月、ベトナム共産党中央組織委員長に加えて書記局常務に就任したことに触れ、党の重責を二つも担っている方が友好議員連盟の会長であることは、ベトナムが日本を重視しているあかしであろうとの認識を示した。最後に、政府間の対話とは異なった視点で、議会人同士が交流を持つ意義は今後ますます大きくなっていくとし、両国議会間の大きな懸け橋である越日友好議員連盟の活動に改めて感謝の意を表した。

尾辻議長の発言を受けてマイ会長は、両国関係が新たな政治的信頼に発展していることは喜ばしいと応じた。続いて、尾辻議長が就任後初めての外国訪問先にベトナムを選んだことに感謝の意を示した上で、日本の要人との面会を通じて互いを思う気持ちが深まるとともに、両国関係の発展を感じると述べた。また、外

交関係樹立五十周年を機に、多くの要人が訪越することに期待を示した。さらに、ベトナムの街に出れば国民の親日ぶりを感じられると思うと述べ、これは五十年にわたる両国関係の成果であると指摘した。加えて、友好議員連盟の会長として議員同士の交流を深め、関係強化に貢献することを約束した。また、投資・貿易に関し、日本は重要なパートナーであり、日系企業がベトナムに投資しやすくなるよう環境整備を進めていると説明した。さらに、日本政府が在日ベトナム人に対する施策の改善を図っていることに感謝の意を示した。続いて、ベトナムのクリーンエネルギー、DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進をサポートするため、新たな段階のODA供与に期待を示した。最後に、南シナ海の問題について、国連海洋法条約を始めとする国際法を遵守し、平和的かつ安定的に解決するというベトナムの立場への支援を要請した。

同行議員からは、議員間交流を更に進めるため努力したいとの意見、ベトナムの経済発展に公共交通機関の整備が追い付いていないため、インフラ整備を支援したいとの意見、日系企業がベトナムでビジネスを行いやすくなる環境整備についての要請、技能実習生の人権に配慮した政策推進への期待、国際法を遵守し、力による現状変更に反対する立場を共有するとともに、地図を一方的に書き換えるなど断じて認められないとの意見、法の支配、海洋秩序の面で海上保安庁の知識・経験を活用したいとの意見、紛争があっても戦争に至らぬよう解決する努力を続けてきたASEANの姿勢に学びたいとの意見、ベトナムでの女性の政治参画に関する取組に学びたいとの意見が述べられた。

### （三）ルア越日友好協会会長との会談等

六日午後、一行は、トー・フイ・ルア越日友好協会会長との会談、同会長主催昼食会出席のため、ベトナム国会議事堂を訪問した。

ルア会長は、今回の尾辻議長一行の訪問は外交関係樹立五十周年を祝う年に行われるものであって、ベトナム国会と参議院、そして両国関係全体において重要な行事であり、また両国の協力を拡大・深化する契機となると述べた。

これに対して尾辻議長は、ルア会長が越日友好議員連盟会長として長年にわたって日本とベトナムの議員間交流の橋渡し役を担い、その功績により平成二十八（二〇一六）年に旭日重光章を受章したことに言及し、同会長の尽力により両国の議員同士の結び付きはますます強いものとなっていると述べ、その貢献に敬意を表した。その上で、ルア会長のこれまでの御経験を伺って両国関係を更に強化する機会にしたいと述べ、昼食会への招待に感謝の意を示した。

会談終了後、一行はルア会長主催昼食会に出席して越日友好協会会員、ベトナム国会議員等と意見交換した。

### （四）トゥオン国家主席への表敬

六日午後、一行は、ヴォー・ヴァン・トゥオン国家主席への表敬のため、国家

主席府を訪問した。

トゥオン国家主席は、尾辻議長一行の訪越を歓迎した上で、今回の訪問はベトナム国会と参議院との交流を深め、ますます発展させることに貢献するものであると述べた。

これに対して尾辻議長は、トゥオン国家主席の歓迎に感謝の意を示した上で、両国の間には、長い歴史に裏打ちされた温かい友情と深い文化的な結びつきがあり、今後も「自由で開かれたインド太平洋」を実現していく上で極めて重要なパートナーとして、密接に連携して歩んでいくことを確信していると応じた。続いて、不透明さを増す安全保障環境などの課題に両国が共通の認識を持って取り組んでいくことが、東アジア地域の平和、安定、繁栄を大きく促進させるものと考えたとの見解を示した。また、政府間はもとより、両国の議会人同士の対話と交流の活性化が、様々な課題に対する柔軟かつ多様な視点を提起する機会となることに期待を示した。最後に、歴史的節目の年に今後最も重要な行事となるのは、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御訪越とトゥオン国家主席の御訪日であり、両国の友好関係強化のためにも、国家主席の日本訪問が実現し、日本でまたお目にかかることを楽しみにしていると述べた。

これに対してトゥオン国家主席は、外交関係樹立五十周年を迎え、また両国関係を「広範な戦略的パートナーシップ」に格上げしてから十年が経過し、両国はすばらしい成果を上げているとの認識を示した。続いて、三十年ほど前、ASEAN諸国の青年のために日本が実施していた交流プログラムに参加した自身の経験に言及した上で、この交流プログラムが日ASEAN関係の基礎になっていると評価した。また、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御訪越、年内に予定される自身の訪日や政府、国会といったハイレベルの交流に加えて、地方自治体間の交流や双方の関心のある分野での交流を更に進めたいとの意向を示した。最後に、南シナ海の問題に関し、国連憲章、国際法、国連海洋法条約に基づき平和的な解決を目指すベトナムの立場を日本が支持していることに感謝の意を示すとともに、南シナ海での航行の自由に関する支援を要請した。

同行議員からは、トゥオン国家主席の御訪日は重要なイベントになるとの発言、議員間交流、若者の交流の促進に努力したいとの意見、一つ一つの小さな交流の積み重ねが大切であるとの意見、紛争があっても戦争に至らぬよう解決する努力を重ねてきたASEANに学び、北東アジア全体に広げていきたいとの意見、日本国会の女性議員割合が約一割であるのに対し、ベトナム国会では約三割であることから、その取組に見習いたいとの意見が述べられた。

最後に尾辻議長は、ベトナムとの交流を更に活発にしていきたいと考えており、トゥオン国家主席の御訪日を楽しみにしていると改めて強調した。

## (五) 視察等

五日午前、技能実習生の送出機関であるホアンロンCMSを視察した。ホアン

ロンCMSの代表取締役会長や同社が提携している日本の医療法人関係者から説明を聴取した後、実習生候補の日本語教育、介護実習の様子を見学するとともに、授業中の実習生候補と日本語で交流した。その後、日本以外への実習生の派遣、語学教育の内容、実習生の心理面に対するサポートの在り方などについて質疑応答が行われた。

六日午前、ハノイ日本人学校を視察した。同校校長を始め関係者から概況説明を聴取した後、体育館、屋上プール、小学部・中学部の授業を見学した。その後、児童・生徒数の増加への施設面での対応、日本語でのコミュニケーションが困難な、あるいは支援が必要な児童・生徒の受入れが難しい状況、経験が三年未満であるため労働ビザが発給されない教員について、赴任可能となるよう講じられている特例的措置の継続要請などについて質疑応答が行われた。

また、六日夜、一行は元日本留学生を招いて夕食懇談会を行った。

#### 四、シンガポール共和国

##### (一) シア国会議長との会談等

八日午前、一行は、シンガポール国会議事堂の見学、シア国会議長との会談、同議長主催昼食会出席のため、シンガポール国会を訪問した。

まず一行は、シンガポール国会事務局の案内によりシンガポール国会の歴史について説明を受け、本会議場を見学した。

続いて、一行はシア議長の出迎えを受け、芳名録に記帳した。

引き続き、テマセク・スイートでシア議長との会談が行われた。

会談冒頭シア議長は、尾辻議長一行を歓迎し、議長就任後初となるシンガポール公式訪問を歓迎すると述べた。

これに対して尾辻議長は、八月のシア議長の就任に祝意を示すとともに、同議長の招待によりシンガポールを訪問できたことは光栄であり、大きな喜びであると応じた。続いて、日本とシンガポールは天然資源に乏しく、人的資源の開発に注力することで経済発展を遂げてきた共通の歴史があることに言及した。また、アジアの中で大きな責任と役割を有する両国は、政治、経済など様々な分野での協力を強化していく必要があり、なかでも両国の国民を代表する議会人同士が率直に意見交換を続けていくことの意義は、今後ますます大きくなっていくと強調した。さらに、アジア各国にとって最優先の課題は地域の平和と安定であると指摘した上で、両国は本年六月に締結した「防衛装備品及び技術の移転に関する協定」などにより国際社会の平和と安全を守るための協力を着実に進めていると評価した。最後に、法の支配、航行の自由といった基本的価値を共有し、自由貿易のためのシーレーン確保に共に大きな関心を有する両国の協力はこれまで以上に重要であり、様々なレベルで対話を積み重ねていく必要があるとの見解を示した。

尾辻議長の発言を受けてシア議長は、人材はシンガポールにとって貴重な資源

であり、規律正しく、生産性の高い人材の開発を日本から学んだと説明した。続いて、両国の政府間を始め様々なレベルで結び付きが発展しているとした上で、議員同士の交流も積極的に行いたいと思っていることから、議長一行をお迎えできたことは大変喜ばしいと応じた。また、参議院による自身への訪日招待に感謝の意を示すとともに、十一月の訪日への期待を示した。さらに、両国間の経済活動・貿易は活発であり、日本からの投資を歓迎していると述べた。加えて、安全保障に関する尾辻議長の発言に賛同した上で、この地域の平和と安定の重要性に関して両国は立場を同じくしているとの見解を示した。最後に、日本の議員団はAIPA総会に定期的かつ積極的に参加し、有益な意見を披露してくれていると述べて参議院代表団の活動を高く評価した。

同行議員から、両国間では安全保障面でも経済貿易面でもほとんど相違点がなく、連携して地域をリードしていくことが極めて重要であるとの意見、WTO（世界貿易機関）が機能不全に陥るなど自由貿易も危機的状況にある中、両国経済の生命線である自由貿易のため行動を共にしなければならないとの意見、AIPA総会など地域の様々な議員会議にはアジア地域に精通した議員の派遣を約束するとの発言、戦争が一たび起こると国民が苦しむことになるため、両国は地域の平和と安定のため努力・協力する必要があるとの意見、女性議員同士の交流を進めるべきとの意見、女性議員の数を増やし、女性の視点を政策に盛り込む方策について意見交換したいとの発言、シンガポール国会では多民族の議員がそれぞれ違う言語を使いながら議論することを改めて認識したと述べた上で、相互に尊重しながら調整する努力や粘り強さが必要だと感じたとの発言があった。

会談終了後、一行はシア議長主催昼食会に出席してシンガポール国会議員と更に意見交換した。

八日夜、一行はクェック・ヒエン・チュワン・ヘンリー・シンガポール日本友好議員連盟副会長主催夕食会に出席して、友好議員連盟会員と意見交換した。

## （二）視察等

八日朝、シンガポール日本人墓地公園を訪問し、シンガポール日本人会関係者の案内により同公園を視察するとともに、慰霊の碑を参拝して献花した。

また、同日午後、世界有数のコンテナ貨物取扱量を誇るシンガポールの港湾施設のうち、コンテナ積卸しを自動化しているパシル・パンジャン港を訪問し、港湾運営会社であるPSAコーポレーション担当者の案内により自動クレーン・オペレーション・センター、イノベーション・センター等を視察するとともに、質疑応答を行った。

## 五、終わりに

尾辻参議院議長一行は、ベトナム国会及びシンガポール国会から熱烈な歓迎を受けた。



ベトナムでは、到着時にハー国会対外委員長が一行を出迎え、出発時にはグエン・ダック・ヴィン国会文化教育委員長が見送りのため空港を訪れ、ベトナム滞在中の活動を記録した写真アルバムを尾辻議長に贈呈した。

ベトナム国会は、外交関係樹立五十周年の節目に行われた尾辻議長一行の訪越を両国の立法機関の最もハイレベルな交流であり、特別な行事と捉えており、その歓迎ぶりは良好な両国関係も反映して盛大であった。なお、参議院議長のベトナムへの公式派遣は初めての例である。

シンガポールでも、空港到着時にクェック・シンガポール日本友好議員連盟副会長が一行を出迎えた。一行の搭乗した飛行機の到着が約四時間遅れの午後九時近くになったにもかかわらず、同副会長は一行の到着まで空港で待機し、もてなしの気持ちを示してくれた。

シア議長が本年十一月に参議院の招待により訪日を予定していることもあり、今回の尾辻議長一行のシンガポール訪問は両議会の交流を一層深めただけでなく、両議長の個人的な結び付きを作る契機ともなった。

ベトナム、シンガポールのいずれでも、議会間交流の重要性、I P U会議、A I P A総会、A P P F総会など議員間の国際会議における相互協力の重要性について意見が一致し、議会間交流班としての目的を達成することができた。

とりわけ、シア・シンガポール国会議長からA I P A総会における参議院代表団の活動が高く評価されたことは特筆に値する。参議院の海外派遣については、平成十六（二〇〇四）年六月十五日に、議院運営委員会理事会において、東南アジア等近隣諸国に重点を置くこと、国際会議へ積極的に参加すること等を内容とする見直しが行われた。これに倣った参議院の取組が実を結び、今回の評価につながったと言えよう。

加えて、現下の国際情勢を反映し、安全保障が共通の関心事項であったことが印象に残った。会談を通じて力による現状変更の試みに反対し、国際法に基づき紛争を解決することについて共通認識を得られたことは成果の一つである。

両国訪問に当たっては、ベトナム国会、シンガポール国会及び外務省関係者並びに山田滝雄ベトナム社会主義共和国駐箚特命全権大使、石川浩司シンガポール共和国駐箚特命全権大使を始め、在外公館員等多くの方々から多大なる御支援・御協力を得た。お世話になった皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。